

教員による取組



【出前講座】

大学の研究成果を社会に還元する取組の一環として出前講座を実施しています。大学ウェブサイトにバラエティーに富んだ100を超える講座を掲載しており、県内各地の学校や公民館などのリクエストに応じて、教員が現地に赴き授業を行います。

◆ 令和6年度 延べ43講座実施



【公開講座】

地域の皆さまに生涯学習の機会を提供するため、公開講座を実施しています。学科、課程、附属機関教員が自らの専門分野の講義を行います。

令和6年度は12講座を開講し、延べ1,000名以上の方に受講いただき、ご好評をいただきました。今後も本学の専門性を活かし、教育や研究の成果を広く社会に紹介し、多岐にわたるテーマの講義を企画してまいります。

◆ 令和6年度 参加人数 延べ1,183名



【外国語教育研究所】

県内高校生を対象としたグローバル人材育成事業「明石塾」、英語コンテスト「明石杯」、高等学校連携英語授業などを実施しました。

また、海外事業展開をしている県内企業でのビジネス英語研修、玉村町内小学校の英語授業支援、幅広い年齢層の方が研究員との英会話を楽しむ「グローバルカフェ」などに取り組みました。今後もこれらの活動をさらに充実させ、積極的に地域の皆さまに貢献してまいります。

◆令和6年度高等学校連携英語授業 計15回（6校） 受講した高校生 延べ1,019名

◆令和6年度グローバルカフェ 計22回（153名）



【群馬学センター】

群馬学センターでは県内の歴史・社会・文化に関するセミナー及び講演会の開催や、書籍の刊行をしています。年に2回開催している「群馬学連続シンポジウム」は令和6年度までで46回を数え、参加者は累計17,600人となっています。

また、令和4年度からは史料の読解を通して地域の歴史と文化を学ぶ「群馬学連続セミナー」を開講しています。群馬学センター資料室では郷土史家萩原進氏の蔵書を中心に約6,500冊の群馬関連の図書を公開しており、一般の方でもご利用いただけます。

◆令和6年度 群馬学連続シンポジウム（2回開催）参加者388名

◆令和6年度 第5期・群馬学連続セミナー 参加者82名

第6期・群馬学連続セミナー 参加者89名



【地域日本語教育センター】

在住外国人が地域社会で生活する上で大きな課題となる日本語教育の拠点として、日本語教室の開催や、日本語ボランティアの方を対象とした研修会などを行っています。

また、令和6年度に登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関として登録され、国家資格である「登録日本語教員」の養成にも力を入れています。

◆令和6年度 地域日本語教育講演会 参加者83名

◆令和6年度 日本語ボランティアスキルアップ研修（2回開催） 参加者49名

【審議会・委員等】

群馬県内高等学校学校評議員／群馬地方労働審議会委員／群馬県市町村振興協会評議員／富岡市立美術館評議員／群馬県文化財保護審議会 防災部会専門委員／ぐんま男女共同参画センター運営会議会長／群馬県景観審議会委員／群馬県グッドデザインぐんま推進委員／群馬県文化財防災ネットワーク連絡協議会会長／群馬県地域創生部指定管理者評価委員会 文化施設専門委員／群馬県教育人材支援協議会委員／玉村町多文化共生地域づくり検討委員会委員長／玉村町公民館運営審議会委員長／玉村町文化財委員「歴史浪漫たまむら委員会」／太田市資料館等運営委員会委員／藤岡市文化財保存活用地域計画策定協議会委員／国立国会図書館納本制度審議会委員／皇居三の丸尚蔵館所蔵文化財（絵画）保存修理事業審査委員会委員／株式会社エフエム群馬 放送番組審議会委員 など



出前講座



公開講座



外国語教育研究所



群馬学センター



地域日本語教育センター



群馬県立女子大学

2024

地域・社会貢献活動 報告書



国文学科・英米文化学科・美学美術史学科

近隣の中学校での放課後学習教室の支援



地域の中学校などで運営されている放課後学習教室に教員を目指す学生が向き、中学生の自学自習の支援を行っています。学生たちは中学生の皆さんの学びを支えながら、教えることの体験を通じて、「先生への道」を歩んでいます。

「学校現場でICT教育実践」プロジェクト



学校現場では、GIGAスクール構想の下、電子黒板、タブレット等のICT（情報通信技術）機器が活用されています。教職課程では電子教科書などクラウド型授業支援アプリの活用方法を学ぶとともに、地元教育委員会とタイアップして実際に小中学校で、先生の補助や授業をすることで、その実践能力向上を目指しています。

国文学科

絹文化！お国ことば調査プロジェクト



世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の登録10周年を迎えた2024年は、これまでに行ってきた絹文化に関する方言や文学の研究成果を総合して、報告しました。第43回錦野祭でのパネル展示や、高山社跡世界文化遺産登録10周年記念フェスティバルのシンポジウムで発表しました。活動の報告はwebページで公開中！

国際コミュニケーション学部

English Story Timeの企画・実施



玉村町立図書館の協力を得て、学生が企画したイベントEnglish Story Time「えいごのじかん」を玉村町文化センターで開催しました。国際コミュニケーション学部の有志が集まった1、2年生が、地域の子供たちに英語の絵本の読み聞かせや、歌、ゲームを行いました。学生が主体となってイベントの内容決定からポスター作成まで行いました。広報にも力を入れた結果、当日は親子40名以上の参加があり、大盛況となりました。

文化情報学科

「フィールドワーク基礎」で教室の外に飛び出す



文化情報学科必修科目の「フィールドワーク基礎1・2」では、学問的な問いの立て方や深め方、資料やデータ収集の基本的な方法を学びます。実際に県内外の調査地に足を運び、人びとの暮らしやコミュニティ、地域資源についての調査を行います。

「ジャパンサーチ」と連携して、地域の文化資源を紹介



日本のデジタルアーカイブをつなぐポータルサイトが「ジャパンサーチ」です。このサイトの機能を利用し、学生たちが文化資源を「地域」の切り口でまとめて紹介するデジタル展示を作成しています。展示内容は「ジャパンサーチ」の活用事例として、公式サイトで紹介されています。

国際コミュニケーション学部

「コミュニティで学ぶSDGs」：県内高校生との連携授業



本学の学生たちが地域社会と共に「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連した学習に取り組むアクティブ・ラーニング科目です。今年度も昨年度に引き続き、群馬県内の高校の「探究」科目と連携して実施しています。高校生と大学生が協同して調査やプレゼンテーションを行い、交流を深めています。

「プロジェクト学習」国際経済学ゼミ生が「群馬の地酒」動画コンテスト2024出場



「群馬の地酒」をPRする動画コンテストに国際経済学ゼミの学生が出場しました。担当した酒蔵に取材を行い、専門的なアドバイスを受けながら動画を制作しました。完成した動画はザスバ群馬の試合会場のスクリーンで放映され、YouTubeでも公開されています。

美学美術史学科

美術館との連携



アートマネジメントゼミおよび演習の授業では、2013年から継続して群馬県内の7つの美術館と連携し、主に子どもを対象とした、造形プログラムの企画立案、実践を行っています。学生が主体となって、子どもが親しみやすいプログラムを実施しています。

病院内アートプロジェクト（キネティックアート）



大学と病院とのアートによるコラボレーション「あかり展」を開催しました。病院に訪れる利用者、職員にすこしでも心を和らげてもらえるよう「癒し」「花」をテーマとした動いて光る作品、キネティックアートを病院内ギャラリーで展示しました。授業「デザイン4(実践)」の受講生15名が考案しました。

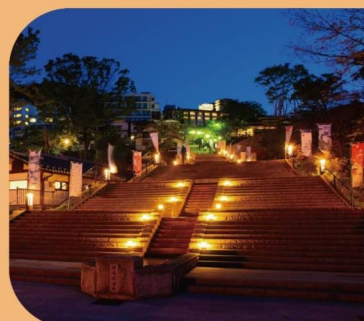
美学美術史学科

サントリー「ザ・プレミアム・モルツ」群馬限定ビール缶デザイン



サントリー株式会社が、群馬の天然水を使い、群馬の工場で製造している「ザ・プレミアム・モルツ」をもっと広く群馬県民に知ってもらうため、県内の大学にビール缶のデザインを公募、実技ゼミ14名（絵画ゼミ9名+デザインゼミ5名）が参加し、デザインゼミ学生のデザインが採用されました。

伊香保アートプロジェクト 手ぬぐいアート展



実技ゼミ（絵画・デザイン）が地域連携として2011年から携わってきた「伊香保手ぬぐいアート展」がコロナ禍を経て2024年度から活動再開しました。学生たちがデザインした手ぬぐいをのぼりにし、展示しました。webにて投票が行われ、上位の作品が商品化されます。

小学生と保護者を対象とした「リアル人生ゲーム」の制作・実施



地域住民やプロのアーティストなどと連携し、ライブイベントを企画・実施する授業「芸術の現場へ3」。2024年度は玉村町住民活動サポートセンター「ばる」のご協力を頂き、「リアル人生ゲーム」を制作・実施しました。町内の小学生に、等身大のボードゲームをプレイしながら、人生の様々な出来事を体験してもらいました。

富士スバル株式会社との連携



富士スバル高崎店に完成した巨大な壁画デザインの依頼に続き、2024年度は、経営理念「Thanks to you」をアート作品に視覚化し、アートとビジネスの融合を図る新たな企画を進めました。絵画ゼミ生20名が参加し、本社および県内の店舗用にデザイン案を制作し、5名の作品が選出されました。

株式会社丸吾との連携



株式会社丸吾は東京で創業し前橋を拠点にスタートして36年が経つ会社です。新社屋の建設・移転に伴い、看板や公式媒体などに使用される新ロゴデザインの制作依頼を受けました。絵画ゼミ生20名が参加し、最優秀賞1点と優秀賞1点が選ばれ、最優秀賞の作品は新しいロゴとして使用されます。

様々なデザインによる地域連携



デザインゼミでは、デザインを通して、毎年様々な地域連携を行っています。2024年度は以下のデザインによる連携を行いました。
①玉村町「芸能発表会」「総合芸術展」ポスター・チラシデザイン
②未来構想フォーラムイメージビジュアル
③群馬県信用保証協会広報デザイン
④日本看護教育学会ポスターデザイン

J A F 群馬支部との連携



2024年度は以下の4事例について制作し、それぞれ県内に配布しました。
①アプリクーポンのためのデザイン（デザインゼミ）
②交通マナー向上のための啓発のぼり旗のデザイン（デザインゼミ）
③同じ目的で使用する横断幕のデザイン（絵画ゼミ）
④自転車事故を減らすための反射キーホルダーに使用するデザイン制作（絵画ゼミ）

たかさき雷舞フェスティバル ノベルティだるま



毎年10月に開催される群馬のよさこい祭り「たかさき雷舞フェスティバル」のダンスチームへ実技（絵画・デザイン）ゼミ生23名がデザインした「チームの特徴をとり入れたオリジナルノベルティだるま」を、参加賞としてプレゼントしました。当日は全だるまを会場に飾り、来場者の注目を浴びていました。

富岡市観光交流課との連携



9月から約40日間、富岡市のまちなかに学生、教員の作品を展示する「まちかどアートめぐり」を開催し、市内施設や店舗を巡るシールラリーを行いました。また、会期中には親子向けの造形ワークショップ「まちなかわくワークショップ」、株式会社エネクル主催の「ハッピーズマイルフェア」でのブース出展も行いました。

玉村町文化センターとの連携



10月に開催された文化センター主催の企画「見て！聴いて！デジタル絵本♪〜バイオリンの音色にのせて〜」において、学生がシンデレラの朗読を行いました。会場では絵本を投影し、どなたでも自由に朗読を楽しむことができました。また、他の公演の際に影アナやチケットもぎりのボランティアとしても活動しています。